教師と生徒及び生徒相互の人間関係を育てる学級経営
～グループ・エンカウンターを通して～

目　　次

Ⅰ　テーマ設定の理由 …… 61
Ⅱ　研究仮説 …… 62
Ⅲ　研究の全体構想図 …… 62
Ⅳ　研究方法と内容 …… 63
　1　学級の実態調査 …… 63
　2　調査の結果 …… 64
　　(1)　ソシオメトリックテストの結果 …… 64
　　(2)　スクールモラルテスト（SMT）の結果 …… 65
　3　グループ・エンカウンターの理論的背景 …… 68
　　(1)　グループ・エンカウンターとは何か？ …… 68
　　(2)　「ジョハリの窓」を開くと …… 68
　　(3)　教室での流れ・７つの手順 …… 69
　　(4)　エクササイズ中にやること …… 69
Ⅴ　グループ・エンカウンターの実践 …… 70
　1　全体的指導観 …… 70
　2　指導計画（実践したグループ・エンカウンター） …… 70
　3　指導案 …… 72
　　(1)　主題 …… 72
　　(2)　主題設定の理由 …… 72
　　(3)　本時のねらい …… 73
　　(4)　行動目標 …… 73
　　(5)　展開 …… 73
　4　グループ・エンカウンターの実践結果と考察 …… 75
　5　グループ・エンカウンター実践後のソシオメトリックテスト
　　とスクールモラルテスト（SMT）の変化 …… 76
　　(1)　ソシオメトリックテストの結果 …… 76
　　(2)　スクールモラルテスト（SMT）の結果 …… 77
　　(3)　級友関係の変化（SMTより） …… 78
Ⅵ　研究の成果と今後の課題 …… 80
　1　研究の成果 …… 80
　2　今後の課題 …… 80
〈引用・参考文献〉 …… 80

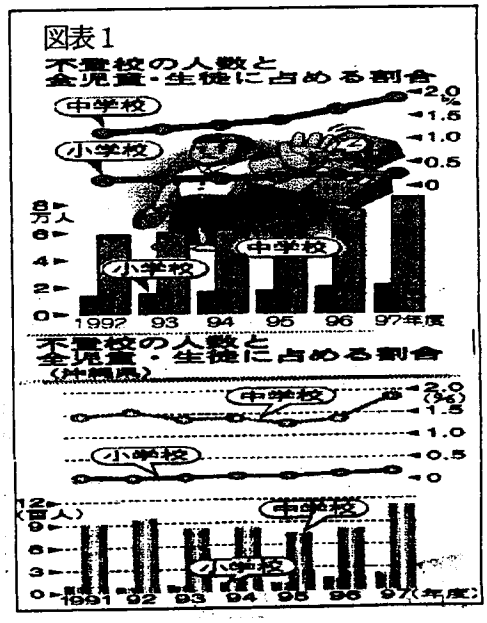
宜野湾市立　宜野湾中学校
知　名　朝　常

＜学級経営＞

教師と生徒および生徒相互の人間関係を育てる学級経営
～グループ・エンカウンターを通して～

宜野湾市立宜野湾中学校　教諭　知　名　朝　常

Ⅰ　テーマ設定の理由



今日の学校を取り巻く諸環境の変化などを背景とする不登校の実態は、ますます複雑化しつつあり、いじめの問題とともに大きな社会問題となっている（図表1）。最近では、それらの問題が深刻化し、中学生による自殺やナイフによる殺傷事件等の問題が発生するなど憂慮すべき状態となっている。教師は、それぞれの持ち場で各自の経験と専門性を生かしながら、日々これらの課題に取り組んでいるが、なかなか問題解決に至らないのが現状である。これらの問題の原因を考えた時、学校現場での教師と生徒の関わりや、生徒相互の友達付き合いに一因があり、さらには、教師による教育現場での場当たり的な指導や学級の中での表面的な友人関係など、教師も生徒も心と心で本音をぶつけることが少なくなっていることに根本的な原因があるように思う。

最近の生徒たちの人間関係を別の側面から詳しく見てみると、他者とのコミュニケーションがうまくとれず、人間関係に悩んでいる姿が浮かんでくる。このような生徒たちにおけるコミュニケーション能力低下の第一の要因としては、現代社会の家族構成の核家族化と少子化現象が考えられる。核家族が増えたために、世代間のコミュニケーションが途絶え、本来家族の中で受け継がれるべき大切な経験や文化の継承がなされにくい。さらに、子供の数が減ってきたために家族の中で同世代の兄弟姉妹の関わりが持たれないという現状がある。第二の要因は、小さな頃から集団の中で遊ぶ機会が少ないということが考えられる。生活が豊かになり、お金を出せば何でもそろう世の中になってしまったために、子供たちは人間を相手にするよりは、物を相手にして（例えばテレビゲーム等で）遊ぶことが多くなった。そのような社会の中では、人と人の触れ合う機会が減っており、コミュニケーションの価値が見い出しにくくなっている。第三の要因は、体験や情操教育より知識や学力を重視する社会の風潮・価値観が考えられる。そのために学校では知識偏重教育がなされ、加えて学歴社会という競争社会の中で生き残るために、多くの生徒たちが塾に通い、ゆとりがなくなり疲れきってしまっている。本来、子どもの社会性や人間関係能力は家庭や地域、学校の中で自然に身につくものであったが、以上の三点の理由から、最近の生徒たちは大切な人間関係を小さいときから体験することが少なかったので、人間関係が希薄になっているといえる。それゆえに意図的に人間関係作りを構築する必要がある。

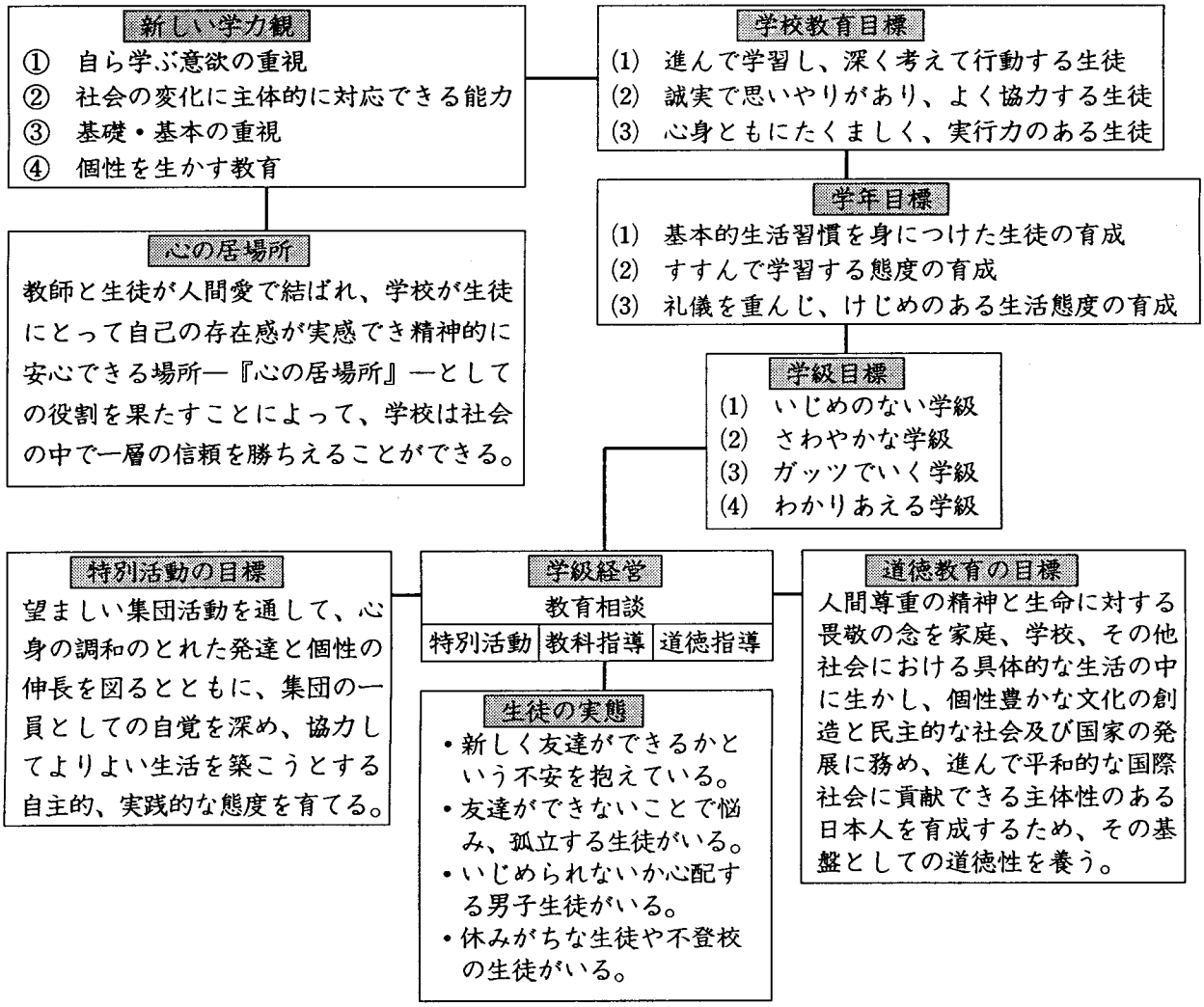
そこで今回は、人間関係の育成の方法としてグループ・エンカウンターを取り入れることにする。グループ・エンカウンターは新しい教育方法として、開発的教育相談ともいわ

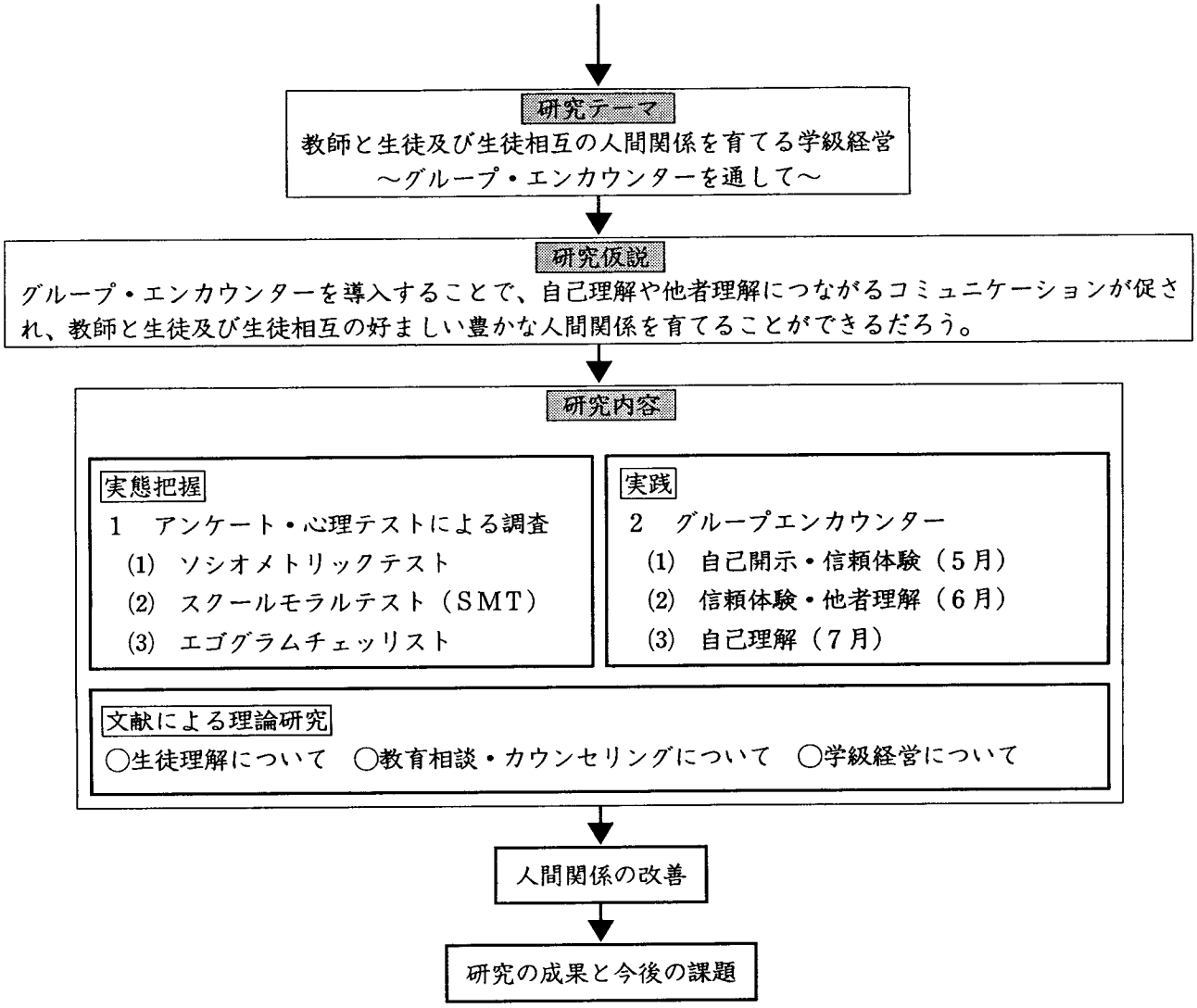
れ、人間関係を深める方法の一つといわれている。グループ・エンカウンターは、自己理解を深めるなど、個々の自己成長を促すとともに他者理解を通しての人間関係を深めることを目的としている。学習指導要領では、総則において「教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めるとともに望ましい人間関係の育成などにかかわる道徳的実践が促されるよう」とある。さらに、特別活動において「望ましい人間関係の確立」や「人間的な触れ合いを基礎に指導を行うこと」とある。今回の研究を通して明らかにしたいことは、次の二点である。第一に、生徒の級友関係に着目して、学級での居場所感や他者・自己理解に視点を当て、実態調査を行い、生徒の内面に目を向けて人間関係を知ること。第二に実際にグループ・エンカウンターを実施して人間関係の育成にどの程度有効かどうか教育的効果の検証を行うこと。以上の二点を追求するために本テーマを設定してみた。

II　研究仮説

グループ・エンカウンターを導入することで、自己理解や他者理解につながるコミュニケーションが促され、教師と生徒及び生徒相互の好ましい豊かな人間関係を育てることができるだろう。

III　研究の全体構想図





Ⅳ　研究方法と内容

1　学級の実態調査

(1)　対象者は、宜野湾中学校1年3組36人（男子18人、女子18人）

(2)　内容と手続きとしては、対象者にグループ・エンカウンター実践前と実践後にソシオメトリックテスト及びスクールモラルテスト（SMT）を実施することで、グループ・エンカウンターの教育的効果と生徒の変容を分析・考察する。ソシオメトリックテストとスクールモラルテスト（SMT）は、4月と7月に2回実施した。

　ソシオメトリックテストでは、学級内での具体的な場面（座席や班）を想定し、「一緒に遊びたい友達」の名前を5名選出させ（無理なら5名以内でもよい）、学級内での人間関係を調べるために実施した。また、スクールモラルテスト（SMT）では、生徒一人一人の学校への帰属感や安定した級友関係、学習への積極性、教師への信頼感、家族関係の満足感などについて知る目的で実施した。

(3)　期間は、1998年（平成10年）4月から7月。

2　調査の結果

(1)　ソシオメトリックテストの結果

【◎…相互選択　○…選択　※選択数…ひとり５人まで】

図表２　　４月　ソシオメトリック・テスト（男子）

男子	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
A		○		○		○									◎			◎
B																		
C				◎	○			◎	○	◎								
D			◎					◎		○	○			◎				
E								◎	◎			◎					◎	
F		○													◎			◎
G	○								◎									
H			◎	◎	◎				◎	◎							◎	
I					◎		◎	◎		◎							◎	
J			◎					◎	◎			◎						
K		○								○				○				
L					◎			○	○	◎							◎	
M																		
N				◎		○		○		○							○	
O	◎	○				◎												◎
P																		
Q			○		◎			◎	◎			◎						
R	◎					◎									◎			
◎数	2	0	3	3	4	2	1	6	5	4	0	3	0	1	3	0	4	3
○数	1	4	1	1	1	2	0	2	2	3	1	0	0	1	0	0	1	0

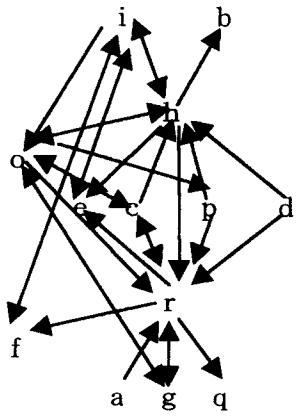
図表３　　４月　ソシオメトリック・テスト（女子）

女子	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r
a		◎	○										◎	◎				○
b	◎												○	◎				
c							◎	○	○						◎			◎
d							○	○										○
e				○				○	◎									○
f									◎			○					○	
g			◎						○						◎			◎
h		○							◎						◎	◎		○
i					◎	◎		◎							○			
j				○							◎					○		
k				○						◎						○		
l																		
m	◎			○										◎				
n	◎	◎											◎					
o			◎				◎	◎								○		○
p				○			○	◎										
q					○							○						
r			◎			○	◎									○	○	
◎数	3	2	3	0	1	1	3	3	3	1	1	0	2	3	3	1	0	2
○数	0	1	1	5	1	1	2	3	2	0	0	2	1	0	1	4	2	5

● 結果の分析・考察

４月に実施したソシオメトリックテストの結果から男子の場合は、相互選択がなかったのがＢ・Ｋ・Ｍ・Ｐの４名で、そのうちＭ・Ｐの２名は選択すらなく孤立していたことがわかる（図表２）。女子の場合は、相互選択がなかったのがｄ・ｉ・ｑの３名であったが、全く選択がないという孤立した生徒はいなかった（図表３）。また、比較的人気があるのが男子ではＨ・Ｉ・Ｊの３名で、７名以上から選ばれている（図表２）。女子ではｈ・ｒの２名で、６名以上から選ばれている（図表３）。これらを分析することにより、いくつかのグループを知ることができる。

図表４　ソシオグラムの例
（女子ｈ・ｒを中心に）



(2) スクールモラルテスト（SMT）の結果

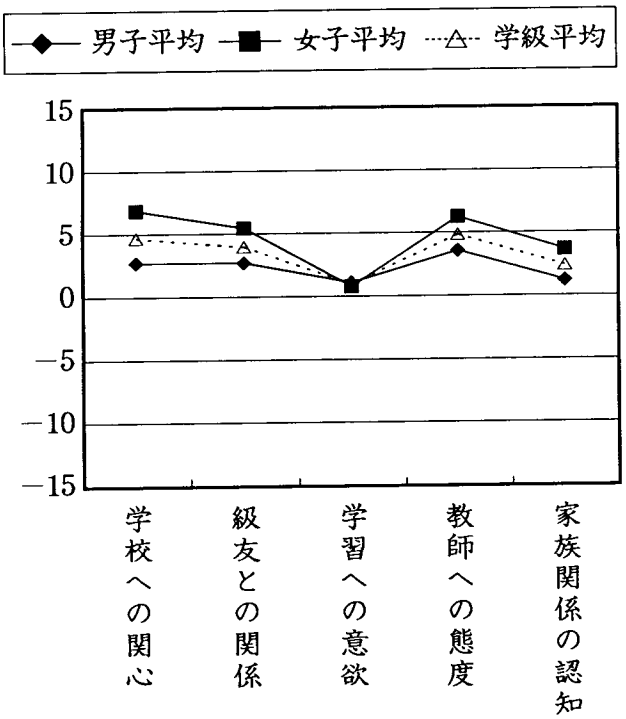
図表5　4月SMT学級集計表（男子）

	学校への関心	級友との関係	学習への意欲	教師への態度	家族関係の認知	総合平均
A	1	6	−3	4	9	3.4
B	10	8	4	9	11	8.4
C	−7	−1	−4	−2	−6	−4
D	6	5	8	9	2	6
E	8	1	9	11	0	5.8
F	11	4	11	10	11	9.4
G	−12	−5	0	−8	−4	−5.8
H	1	5	−8	−1	2	−0.2
I	3	2	−4	0	−6	−1
J	1	2	−4	3	1	0.6
K	9	5	1	4	0	3.8
L	1	6	0	4	−3	1.6
M	0	3	0	−3	3	0.6
N	4	5	14	9	9	8.2
O	3	3	−6	2	0	0.4
P	7	1	7	4	2	4.2
Q	6	2	0	4	−1	2.2
R	−3	−4	−5	5	−9	−3.2
男子平均	2.7	2.7	1.1	3.6	1.2	2.3

図表6　4月SMT学級集計表（女子）

	学校への関心	級友との関係	学習への意欲	教師への態度	家族関係の認知	総合平均
a	5	8	−8	−2	7	2
b	13	11	13	7	4	9.6
c	0	6	−8	−1	−3	−1.2
d	1	4	2	5	5	3.4
e	7	10	7	6	5	7
f	15	9	8	11	11	10.8
g	0	1	−3	11	3	3.6
h	2	4	−5	8	−2	1.4
i	4	7	5	7	6	5.8
j	1	2	0	8	6	5.4
k	11	1	1	5	8	5.2
l						
m	13	6	0	8	8	7
n	6	5	−1	0	8	3.6
o	9	9	1	9	6	6.8
p	10	6	−1	14	4	6.6
q	10	4	−1	7	0	4
r	0	0	4	4	−10	−0.4
女子平均	6.9	5.5	0.8	6.3	3.7	4.6

図表7　4月SMT学級プロフィール

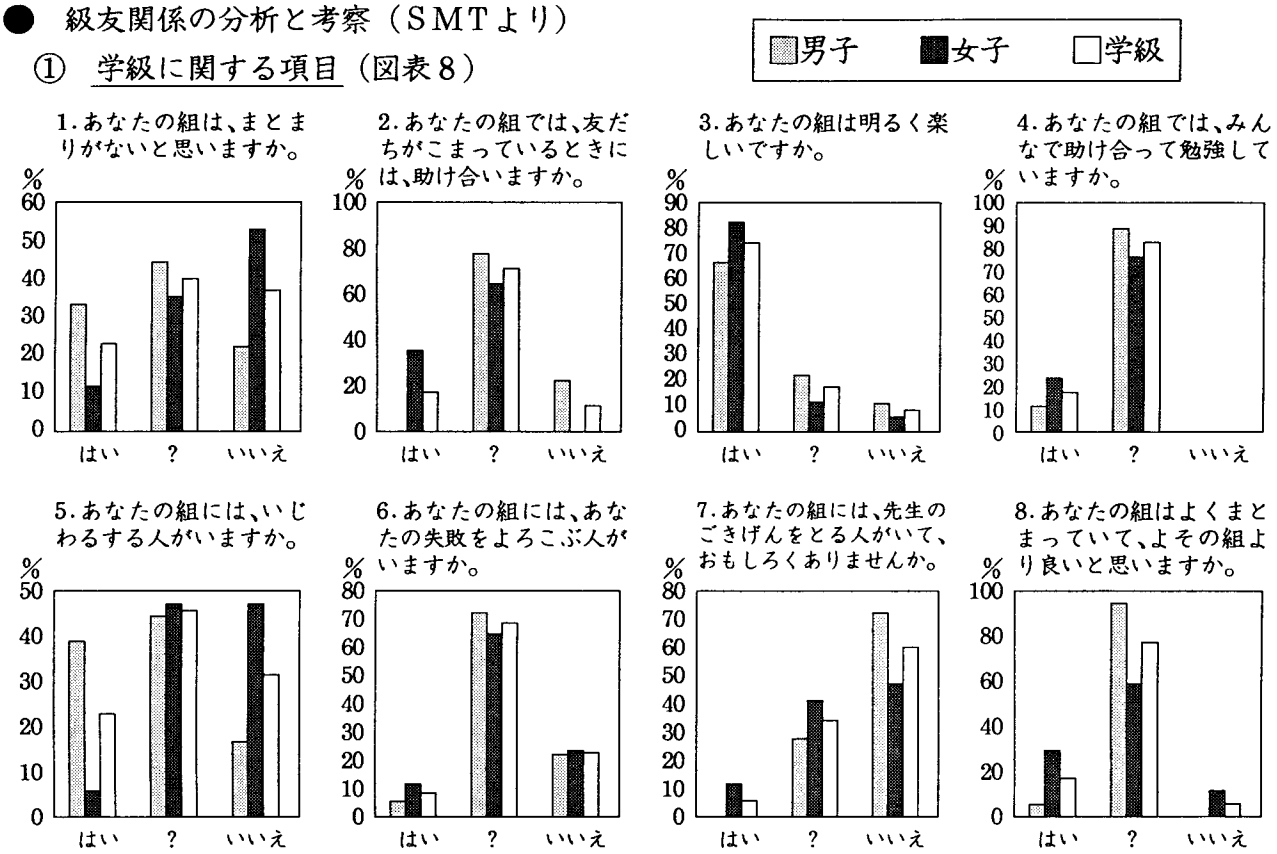


● 結果の分析・考察

4月のスクールモラルテスト（SMT）学級集計表を見てみると、入学して間もない生徒たちの学校モラルの状況が診断できる。学級としては男子の総合平均2.3（図表5）に比べると、女子の方が総合平均4.6（図表6）と高い数値を示している。学級プロフィールのグラフ（図表7）を見てもわかるように、5つの要素から捉えてみると学校への関心や教師への態度の値は高いが、学習への意欲や家族関係の認知の値が低いという結果になってる。今後は中間の数値を示している級友との関係に着目して、学校モラルの向上につなげたい。

● 級友関係の分析と考察（ＳＭＴより）

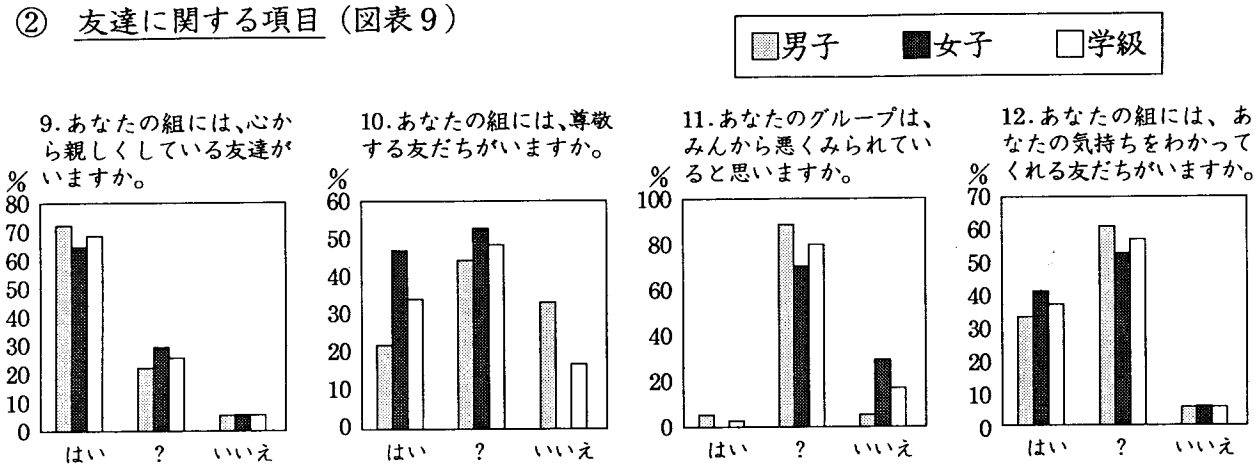
① 学級に関する項目（図表８）



分析・考察

学級に関する項目図表８の１のグラフから、学級のまとまりがないと答えたのは、女子よりも男子の方に目立った。女子の５割以上はまとまりがあると答えており、男女の見解の違いが伺えた。２のグラフからは、４割弱の女生徒が困っているときには助け合うとしたのに対し、男子ではそれがなかった。また、男子の２割近くの生徒が、友達が困っているときに助け合うことをしないとしている。３のグラフからは、男子の７割弱、女子の８割強の生徒が、学級を明るく楽しいと感じている。しかし、約１割の生徒はそう感じておらず、女子より男子の比率が若干高いといえる。４のグラフでは、約２割の生徒が学級で助け合って勉強しており、男子よりも女子の比率が高かった。５のグラフからは、男子の４割弱が学級にいじわるする人がいるとしているが、女子の比率は低かった。男子と女子の比率の違いから、日頃の学級での人間関係が推察できる。６のグラフからは、約１割の生徒が学級に失敗を喜ぶ人がいるとしている。女子の比率が男子の約２倍である。７割の生徒はどちらとも言えないとしているのに対し、失敗を喜ぶ人がいないとしたのは約２割の生徒であった。７のグラフでは、先生のご機嫌をとる人がいないと答えたのは、男子で７割強、対して女子が５割弱と低かった。女子の１割強の生徒が先生のご機嫌取りがいておもしろくないと答えた。男子と女子の見解の違いが出ている。８のグラフでは、自分の学級を他の学級と比較して良いと思っているのは、男子１割弱、女子約３割で女子の比率が高かった。一方、女子の１割強の生徒は他の学級の方が良いと思っている。以上、学級に関する項目のグラフ分析から、中学校入学当初の学級に関する生徒の見方、考え方がわかってくる。男子の中では学級でのいじめの風潮が読み取れる。女子の中では、男子よりも学級に対する評価は高いが、男子とは違う直接的でない人間関係のひずみが感じられる。男女生徒の共通点としては、スタートしたてという事もあって、質問に対する答えを決めかねている生徒が多く、？が目立った。しかし、学級に対しては８割の生徒が明るく楽しいイメージを持っていたことがわかった。

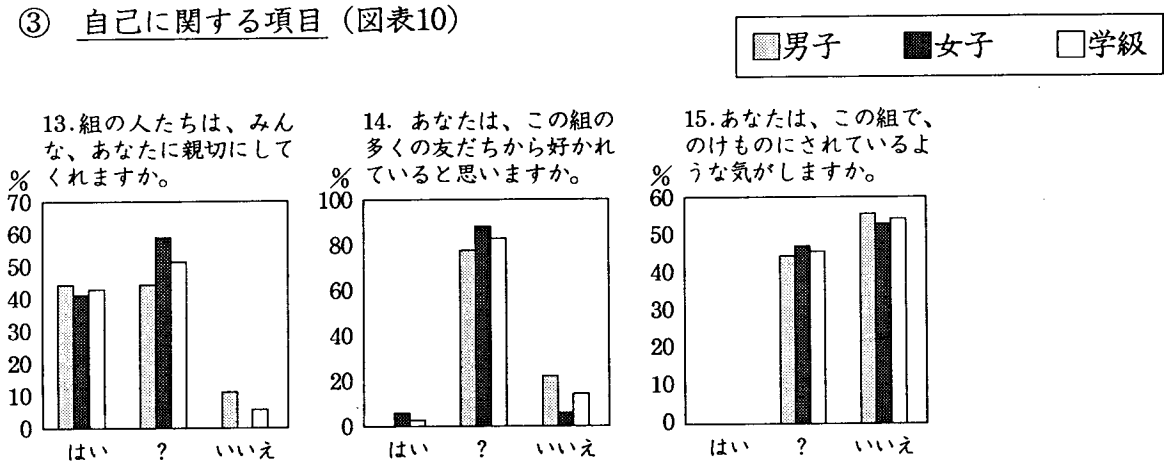
② 友達に関する項目（図表９）



分析・考察

友達に関する項目図表９の９のグラフからは、約７割の生徒が学級に心から親しくしている友達がいるが、１割弱の生徒が学級に親しい友達がいないことがわかった。10のグラフからは、女子の５割弱が学級に尊敬する友達がいるのに対し、男子は２割弱と少ないのがわかる。また、男子の３割強は学級に尊敬する友達がいないとしている。11のグラフからは、男子の１割弱が悪いグループに見られていると感じているが、女子にはいない。女子の約３割は、みんなから悪く見られていると思っていない。12のグラフからは、４割弱の生徒が学級に気持ちをわかってくれる友達がいるとしているが、１割弱の生徒がそんな友達はいないとしている。全体的には女子に比べて男子の友達関係が希薄な感じがする。また、１割程度の生徒が、友達関係を築けないことが気になるところである。

③ 自己に関する項目（図表10）



分析・考察

自己に関する項目図表10の13グラフからは、全体の４割近くの生徒が学級の仲間から親切にしてもらった経験を持っている。しかし、男子の約１割に親切の未経験者がいる。14のグラフからは、全体の約８割の生徒が、学級の友達から好かれているか自信が持てず、どちらとも言えないとしている。また、男子の２割強と女子の１割弱の生徒が学級の友達から好かれていないと考えている。15のグラフからは、５割弱の生徒がのけものにされているかどうかの問いに対して、どちらとも言えないとし、不安を抱いているが、５割強の生徒がのけものにされていないと感じている。また、仲間はずれにされるような生徒は４月の段階ではいないことがわかった。以上の点から、友達や学級が自分自身にどのように関わっているかをとらえる自尊感情は男子に比べて女子の方が高いことがわかった。

3　グループ・エンカウンターの理論的背景

(1)　グループ・エンカウンターとは何か？

エンカウンターとは「出会い」を意味する。それもただ単に出会うのではなく、カウンターの意を汲めば、「本音で交流する」ことによる出会いを意味する。つまり、グループ・エンカウンターとは、本音でやり取りすることを通し自分や他者に出会う場、もしくはそういう活動のことである。

グループ・エンカウンターはアメリカの心理学者ロジャーズによって創造され、日本には1969年頃から紹介され始めた心理学的グループ・カウンセリングである。これは、とくに精神保健上病的でない、いわゆる普通一般の人々を対象にし、小グループでの体験により自己理解や他者理解、相互の関係を深め、自己の成長や快適な対人関係につながっていくことを意図したグループ活動である。

グループ・エンカウンターは自己や他者、関係への気づきなどから、自己を深く見つめ直し、対人関係を促進する効果が期待できる。この過程は批判的、攻撃的でなく、また過度に反省的でもなく、暖かく肯定的に進められる。グループ・エンカウンターは、「癒す」カウンセリングとしての期待に応えるだけでなく、「育てる」カウンセリングとしてもその意義を持つものである。

(2)　「ジョハリの窓」を開くと…

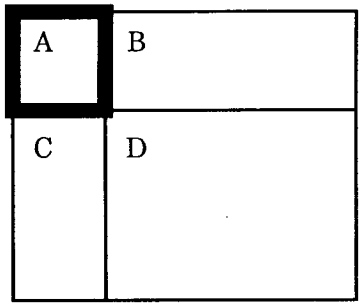
人間関係を深めていくためには欠かせない３つの要素、人間関係の三種の神器といわれるものがある。

- 自ら進んで心を開いて触れ合っていく（ワンネス）
- 他者の気持ちを察していたわってやる（ウイネス）
- お互いにさらに向上し合うためにする好意の対決もおそれない（アイネス）

大事なことはこの3つの要素には順序があり、それをそこなうと人間関係は深まっていかない。

まず触れ合い（ワンネス）で共感できるとき、互いに他者への援助・いたわり（ウイネス）ができる。そのいたわり合いの関係の中でホンネとホンネの交流としての好意の対決（アイネス）が生まれ、人間関係はさらに互いのために役立ちたいという本物に育っていく。（図表11参照）

図表11　開かれるジョハリの窓



どうしたらジョハリの窓が開かれるか

人は誰でも４つの窓を持っており、自ら開示せず隠している部分もあれば、自分も知らないでいる盲目の窓もあり、潜在的な未開発の部分も持っている。よりよい人間関係はそれらを開き合うことで深まる。

相補交流 → 相手の立場に立ってアドバイスする
アドバイスを聞いて自己啓発していく（フィードバック）

相手の立場に立ってその願いを汲み進んで自分の知っていることホンネを話す（自己開示）

	自分が知っている自分	自分が知らない自分
他者が知っている自分	A　開かれた窓 （自他にオープンな領域） 人間関係のキーポイントはこの窓を互いに開き、広げ合うことである。	B　盲目の窓 （人に指摘されるまでは気づかない自己盲点の領域）
他者が知らない自分	C　隠された窓 （人に隠している秘密の領域）	D　暗い窓 （自分にも人にもわからない未知の領域）

(3) 教室での流れ・7つの手順

① **導入**
- 本時のねらいとおおまかな内容の説明。（ねらいは、生徒にとってわかりやすいものに）

② **ウォーミングアップ**（心身の準備運動で、雰囲気を盛り上げる）
- ウォーミングアップまたはリレーションづくり。
- 簡単なシェアリング（ふりかえり）または教師の簡単なフィードバック。

③ **インストラクション**
- 中心となるエクササイズの説明とねらい、してはいけないことを示す。
- 場合によってはデモンストレーションを行う。

④ **エクササイズ**（本時のメインとなる活動）
- 教師は、ルールが守られているかを確認しながら、グループを回って援助する。

⑤ **シェアリング**（エクササイズを振り返る。グループ・エンカウンターのへそ）
- 小グループでの話し合い（ふりかえりとわかちあい）。
- 小グループ同士または全体で意見や感想をわかちあう。

⑥ **生徒の自己評価**
- ふりかえり用紙に本時全体の自己評価を記入する。なお、エクササイズをふりかえるきっかけとしての自己評価は小グループでの話し合いに先立って行う。

⑦ **まとめ**
- 教師からのフィードバック（生徒のよかったこと、次に気をつけて欲しいことなど）。

(4) エクササイズ中にやること

① 参加の仕方を観察する（傾聴しているか、理解しているか、意欲的か、孤立していないか）

② ダメージを予防する（相手を傷つける言葉や行動を事前に禁じ、ダメージを予防する）

③ 生徒の感情を観察し、抵抗がある場合は、これを取り除く（レディネスの再確認をする）

④ グループ内のコミュニケーションを観察する（非言語的なコミュニケーションを見る）

⑤ ルール違反がないか観察する（その場で中止してルールの再確認をすることも必要）

⑥ シェアリングで自分の感情に気づかせる（教師は、観察を通して適切な言葉かけを行う）

⑦ 教師がモデリングの対象となる（自己開示のモデルになるとエンカウンターが促進される）

⑧ ねらいからはずれないように、舵取りをしたり、介入したりする（教師は軌道修正をする）

⑨ 教師は自己開示を積極的に行う（自己開示とは心に湧き起こる感情や考えを表明すること）

(5) シェアリング（エクササイズを通して学んだこと感じたことなどを、振り返り分かち合うこと）

① シェアリングの3つのやり方（小グループ・全体・フィードバック用紙でシェアリング）

② シェアリングのルール（今ここで感じていることを話し、途中で否定的な発言をしない）

③ シェアリングのコツ（教師は発言がしやすいように指示し、生徒の気づきを評価しない）

(6) エクササイズ後のケア（教師は生徒の変化に速やかに対応して自己発見に結びつくようにする）

① 自己開示のしすぎを後悔する生徒へ（ありのままの自分を出したことをほめるケア）

② 自己嫌悪に陥っている生徒へ（生徒の気づいた点に共感し、自己受容できるようにする）

③ 他人を憎悪する生徒へ（エクササイズ後、役割を必ず解くことで解決する）

V　グループ・エンカウンターの実践

1　全体的指導観

生徒はみな、自分のクラスを明るく楽しい学級、温かい雰囲気の学級、のびのびと勉強できる学級にしたいと望んでいる。そのような学級の風土は、まず、お互いに知り合い、友だちになることから始まる。また、友だちの思いやりや親切に気がつくと、友だちを信頼する気持ちがわいてくる。友だちから信頼されると、信頼に応えようとする責任感が生まれてくる。信頼関係は、一人一人の生徒の意欲を育てるのである。さらには、肯定的な自己概念（自分が自分自身を肯定的に見る）を持っている子どもは、自分や他人はかけがえのないユニークな存在としてこの世に生きている価値があると感じている。肯定的な自己概念は、学習面でも生活面でも意欲的に取り組み、がんばっていく土台となるものである。一人一人の子どもの中には、限りない可能性がひそんでいる。しかしそれは、チャンスが与えられなければ現れてこない。感じる力、想像力、思考力、表現力などは、チャンスが与えられれば芽生え、さらに大きく広がってくる。知的学習の偏重が問題にされている今ほど、人間性の教育が求められているときはない。豊かな学習は、教科学習を通して、子どもの全体的な人間性を育てる。そこで、グループ・エンカウンターを通して、学級風土づくりや信頼体験を育て自己や他者が理解できるようにするためにも本題材を設定した。

2　指導計画（実践したグループ・エンカウンター）

① 知名先生を知るイエス・ノークイズ【５月16日（土）実践】

四人組をつくり、担任が自分に関するクイズを読みあげる。クイズの答（イエスないしノー）をグループで相談して決める。全問終わったところで、担任はユーモアをまじえて自己紹介しながら正解を発表する。中学生活の窓口になる担任をよく知り、不安を軽減するとともに、担任の自己開示をモデルとして自己アピールできるようにする。

② ブラインド・ウォーク【５月26日（火）実践】

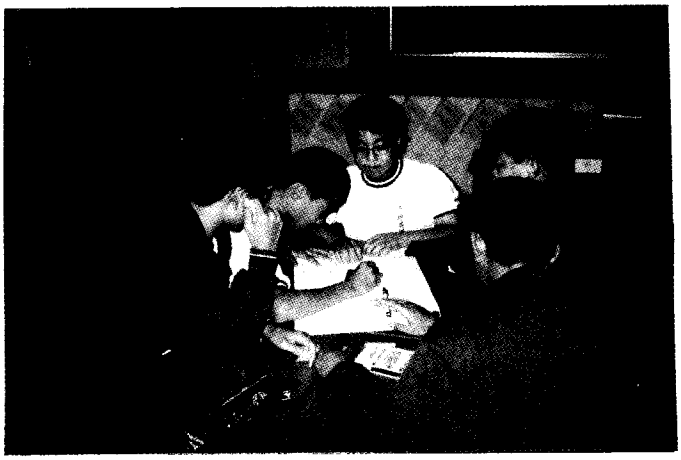
ペアになる。一方が目隠しをし、もう一方が誘導する。二人とも言葉を発しない。指定のコースを誘導する。または指定の空間をお互いにぶつからないように誘導する。担任の合図で役割を交換する。目を閉じた人は相手を信頼し、自分を相手にゆだねる。信頼し、信頼されるという関係を体験すると共に、豊かな感覚も目覚めてくる。やさしさの行動の一貫性によって生じる安心感や自由感、不安感を体験できるようにする。

③ 親切カード【6月6日（土）実践】

学級の中でお互いに親切にしてもらったことなどを思い出してカードに書き、相手の人に渡す。もらった人は、自分からもその人にカードを書いて渡す。どの生徒にもたくさんのカードが行き渡り、今まで気づかなかった友達の親切、優しさに気づくことができる。また、自分に対しても温かい肯定的な感情を持つことができる。

④ 共同絵画【6月9日（火）実践】

四人グループをつくり、リーダーを決める。非言語的表現をつかいながらコミュニケートしあい、タイトルのある一枚の絵を完成する。完成した絵をリーダーが掲示し、タイトルを発表する。その後グループで感想を述べ合う。表情、身振り、手振り、ジェスチャー等が自分を伝える手段であることを体験する。



⑤ ブラインド・デート【6月16日（火）検証授業】

全員が小さな画用紙に自分の特徴を書いて、画用紙を掲示板にはる。全員がそれらを読み、誰が書いたか当てる。異性に対する見方・考え方に気づき、相互に認め合うことで、温かい人間関係をつくる。

⑥ 自分探し【7月9日（木）実践】

各自がエゴグラム・チェックリストに回答し、自己採点し、結果をグラフ化する。4～5人のグループをつくり、結果を見せ合う。班員各自が他者の結果に関する感想をワークシートに記入し、それをもとにディスカッションする。エゴグラムの作成や結果を通して、生徒が自己啓発の具体的な視点をもてるようにする。

3　指導案

道　徳　指　導　案

（グループ・エンカウンターの実践）

平成10年６月16日（火）６校時
宜野湾中学校　　１年３組
男子18名　女子18名　計36名
授業者　　知　名　朝　常

(1)　主題　自己を開いて他者を理解しよう（友だちのあり方）

(2)　主題設定の理由

①　生徒観

本学級の生徒の実態としては、ソシオメトリックテストやスクールモラルテスト（ＳＭＴ）の分析・考察［別紙参照］の結果から、以下のようなことがわかった。第一に、自分の学級に関しては、明るく楽しい学級ではあるが、いじわるする人がいて、助け合いやまとまりがないと考える男子生徒が多い。第二に、学級の友達に関しては、親しい友達は多くいるが、尊敬する友達が少ない。第三に、学級や友達の中で自分自身をどのようにとらえているかという自己に関しては、仲間はずれにされたりするようなことはないが、仲間から認められた存在であるかがわからずに不安を抱えている。全体的に男女を比べると、女子生徒の中ではさほどの問題は表面化していないが、一人不登校の生徒がおり、これからの課題といえる。さらには、男女の交流がそれほどなされていない現状にあり、若干の孤立している生徒がいることもわかった。

発達段階からみると、思春期前半の子供たちは、チャムシップという同性・同年齢の間に親密なグループ関係を作る。これは、相手の人格を尊重し、共感したり、援助したりされたりして深められていく関係であるが、これによって仲間はずれや、けんかも起こりやすい。本学級の生徒も中学生になり、チャムシップ特有の仲間意識がみられる。反面、最近の子供たちは、お互いを深く知ろうとせず、表面的に協調していくという希薄な関係となっている。そして、それは何よりも「他者よりもまず自分のことを考える」という自己中心的な考え方に結びついている。

生徒も教師もみな自分のクラスを明るく楽しい学級、あたたかい雰囲気の学級、のびのびと勉強できる学級にしたいと望んでいる。その中で、人間として生きる力を身につけてほしい。

②　教材観

生徒が求める居心地の良い学級風土は、まずお互いを知り、友達になることから始まる。しかし、本学級の生徒の実態は、当初、本当の自分が出せずに、不安を抱えているという現状であった。その原因は、お互いを知る経験が乏しいということにほかならない。そこで、グループ・エンカウンターを通して心の触れ合いを重ねる体験を取り入れることで、生徒相互の人間関係を改善したい。具体的には、**自己開示**（何を言っても、しても心配ないと感じる場所では本当の自分が顔を出し、ホンネが他者へ伝えられること）と**他者理解**（ただ単に相手を知るという知的理解にとどまらず、相手の感情に目を向けて受け入れること）につながる題材『ブラインド・デート』を設定し、エクササイズ（実習）することで、自分をはじめとして、相手を理解し受容する心が働き、お互いの人間関係があたたかくなるような学級になるよう目標にせまりたい。

(3) **本時のねらい**

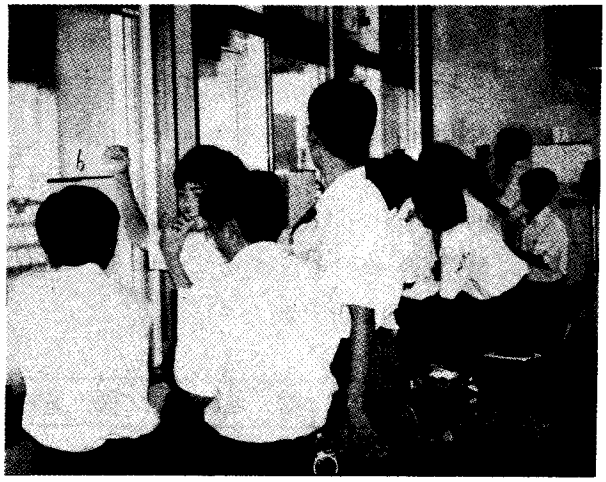
自分の特徴をわかりやすく表現し（自己開示）、それを互いに確認する事により、相手に対する見方、考え方に気づき（他者理解）、受け入れることによって、あたたかい人間関係を作る。

(4) **行動目標**

(1) エクササイズ（実習）を楽しめたか。
(2) 自己開示ができたか。
(3) 他者理解ができたか。

(5) **展開**

	教師の指導・援助	生徒の活動・留意点
導入・インストラクション	●「今日はブラインドデートというゲームをします。デートという意味はわかりますね。ブラインドというのは、前前回ブラインドウォークをやったのでわかると思います。どんな気持ちでしたか。ブラインドというのは、相手が誰だかわからないという意味だと思って下さい。」 ●「これから、皆さんが文通している人とデートをすることになりました。待ち合わせ場所は那覇空港です。相手が手紙をよこし空港にはたくさんの人がいるからあなたを見つけられないだろう。あなたがわかるように特徴を教えてほしいと言ってきました。写真は気に入ったものがないので同封しません。今から配る用紙に自分の特徴をわかりやすくありのまま書いて下さい。」 ●「用紙を配りますが、次の注意点を守ってください。①用紙右下の数字は教室壁面に掲示する場所を示すもの。他人に気づかれないようにする。②記入時間は10分間、合図をしたら途中でもやめるようにする。③みんなの特徴をわかってもらえるようにわかりやすく書く。④あだ名、ニックネーム、部活等すぐわかってしまう内容の記入はあなたの意思にまかせる。⑤うそは書かない。面白半分にいいかげんなことは書かない。⑥どうしても書きたくない項目は無理に書かなくてもよい。」	・準備 ①1番から18番までの番号札 ②クラス人数分のセロハンテープ ③ブラインドデート記入用紙（男子は青、女子は赤ラインを上の方に入れておく・右下のNo.に男女別に番号を書き込んでおく） ④解答用紙 ⑤下敷き・筆記用具（含赤鉛筆） ・開始前にNo.1～18までの番号札を教室の壁面にはっておく。 ・あらかじめソシオメトリックテストによるグループ編成を行い、男女それぞれ4グループに分けて着席する。 ・用紙を配る前にグループのリーダーを決めてもらう。 ・リーダーはグループ人数分の用紙を受け取り配る。 ・記入は生徒の意思にまかせるが、記入が少なかったり、焦点がぼやけていると、なかなか自分を見つけてもらえないことを伝えておく。
展開	●「では、開始。時間が半分経過したら知らせます。」 ●「10分たったので用紙を持って男女グループ別に集合します。」 ●「では、女子グループが壁面を見ないように、目を閉じてください。合図とともに男子グループが壁面に自分の用紙をはりに行	・残り5分であることを確認させる。 ・事前にセロテープを男女別人数分切って番号札の近くに止めておく。 ・事前にはってある番号札の右下に、該当する男子・左下に女子の用紙が掲示されるようにする。

展開・エクササイズ	きます。次は、男子グループが席に座り目を閉じてください。女子グループがその間に用紙をはります。薄目を開けて見ないように。はるほうも、気配をさとられないようにしてください。」 ●「解答用紙を配りますが、次の注意点をしっかり守ってください。①見てまわる時間は15分間。途中でも、合図で中止する。②男子グループは赤ラインの引いてある女子の用紙、女子グループは青ラインの引いてある男子の用紙を読むこと。③グループで相談しあい他のグループの解答用紙をのぞかない。④リーダーが解答用紙・下敷き・鉛筆を持って、各グループですいているところから掲示用紙を読んでまわる。該当すると思われる生徒の名前を書き込んでいく。」 ●「15分たったので、赤鉛筆を持って、席に着きなさい。先生の誘導で1番の人から順に男女一緒にその場に立ってください。その人たちの名前が答えになります。」 ●「一番答えの多かったグループに拍手を送りましょう。」	 ・グループ対抗でどのグループが一番多くあっていたかを競わせる。 ・教師も15分間で生徒の動きを観察しながら参加する。その結果と気づきを公表する。 ・グループに1枚の解答用紙を配り、リーダーが代表して記入する。 ・教師は、解答の男女の名前を復唱する誤答の場合は正解者名をきちんと書き込ませる。 ・グループ別の結果を確認する。
まとめ	●「最後に、気づいたこと、感じたことをふりかえり用紙に記入してください。」 ●「グループから一人ずつ代表して発表してください。」	・友達のことも自分のことも、普段あまり注意して見ていないことに気づかせる。 ・教師のまとめでしめくくる。

◎ 授業反省会の記録より

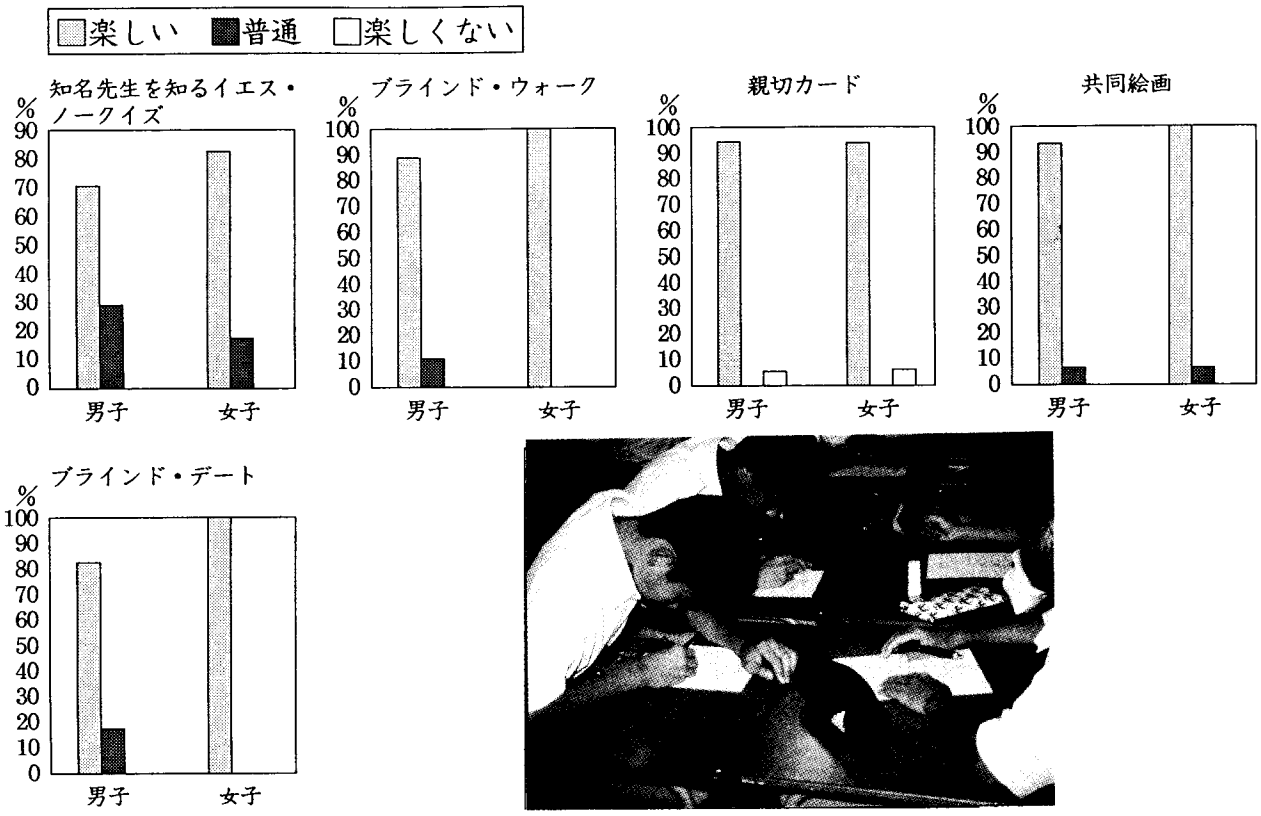
1．授業者の反省

今日の授業は、「自己をオープンに開いて信頼関係を築き、他者を理解しよう」という流れの中にある。方向性がはっきりしていたので、プランニングしやすかった。生徒が、明るく楽しそうに伸び伸びと取り組めたことが良かった。今回で5回目のエンカウンターの授業になるが、最初は生徒とのラポートが取れない状況での授業成立に不安を抱いていた。しかし、エンカウンターの実践を繰り返すうちにその不安は消えていった。反省点としては、時間的な都合もあって、エクササイズ（展開）終了後のまとめの段階で行われるシェアリング（分かち合い）が不充分であったことである。

2．指導助言（出盛光朋主事）

授業実践後の手応えとして毎回「ひまわり号外」を出していることがすばらしい。今日の授業の流れとしては、導入で知性よりも五感を働かせる方法を用いたのは良かった。展開では、自分のことについては、外見も価値観（内面）等もおりまぜながらやっていくと良い。書けない生徒のためにももっと時間を取ればゆったりとした気分で取り組めた。惜しかった点としては、エンカウンターで大事なフィードバック（振り返り）の部分である。指定した用紙に書き込んで読み上げるより、今日のワークシートから発見したことや分かり易かったこと、知らなかったことなどを発表し合えたらなお良かった。今日のエクササイズの選択は良い題材であったが、できればもっと広い空間で時間のゆとりがあればエンカウンターの本質に近づけただろう。

4　グループ・エンカウンターの実践結果と考察（図表12）



実践の結果からわかったことは、最初のエクササイズでは、教師がエクササイズの実践に不慣れな面もあり、生徒たちのエンカウンターの経験不足も加わって、戸惑いや、変な先生だと違和感を持たれたりしました。しかし、エクササイズの回数を重ねる度に、教師と生徒、生徒相互の人間関係が広く深まり、またあの楽しい授業がしたいという声が多く聞こえるようになりました。個人的には、エクササイズを通して、自己開示・自己主張ができるようになって見違えるように明るくなった生徒もいました。学級集団としては、友達の良さを発見することで相互理解につながったり、信頼関係や連帯感が築かれてきました。各エクササイズとも生徒の反応は良好で、最初のエクササイズを除けば生徒たちの 80%以上が肯定的に楽しかったとエクササイズを振り返っています。具体的な生徒の声としては、「知名先生を知るイエス・ノークイズ」では、『クイズに答えるために他の人達とも会話ができて仲良くなった。とても楽しかった。』「ブラインド・ウォーク」では、『人を思いやる心が大切だと思った。相手に信頼してもらえるように行動したい。』「親切カード」では、『1年3組のみんなは、やっぱりやさしい。いろんな人から手紙がきて、チョーうれしかった。もっとこんな授業やりたいよー。』「共同絵画」では、『言葉がなくても、相手の気持ちや自分の気持ちが分かり合えることがとてもうれしかった。』「ブラインド・デート」では、『男子は女子のことをあまり見ていないようで、女子は男子のことをよく知っていた。グループとのチームワークがうまくできて楽しかった。一人だけ間違えてとても悔しかったけど、めっちゃめちゃ楽しかった。男女の仲が前よりも良くなった。』などの感想がふりかえり用紙に記入されていた。

5　グループ・エンカウンター実践後のソシオメトリックテストとスクールモラルテスト（ＳＭＴ）の変化

(1)　ソシオメトリックテストの結果

【◎…相互選択　○…選択　※選択数…ひとり５人まで】

図表13　　７月　　ソシオメトリックテスト（男子）

男子	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
A		◎								○	○		◎		◎			
B	◎														◎			○
C	○	○						◎	○									○
D						◎			○		◎	○		◎				
E			○	○				◎				◎					◎	
F	○			◎							◎			◎	◎			
G									◎	◎		○					◎	
H			◎		◎		○			◎		○	◎				○	
I							◎					◎					◎	
J							◎	◎	○			◎					○	
K				◎		◎		○						◎	◎			
L					◎				◎	◎						◎	◎	
M	◎							◎		○				○		○		
N	○			◎		◎					◎				○			
O	◎	◎		○		◎					◎							
P					○		○		○			◎					◎	
Q					◎		◎		◎			◎				◎		
R	○					○									○			
◎数	3	2	1	3	3	4	3	4	3	3	4	5	2	3	4	2	5	0
○数	4	1	1	2	1	1	2	1	4	2	1	3	0	1	2	1	1	2

図表14　　７月　　ソシオメトリックテスト（女子）

女子	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r
a		◎					◎						◎	◎				
b	◎						◎						◎	◎				
c																		
d								○						○	◎		○	○
e				○					○	○	○				○			
f																		
g	◎	◎											◎	◎				
h																		
i				○				○				◎			◎		◎	
j				○				○			◎					◎		
k				○				○		◎						○		
l						○			◎						◎		◎	◎
m	◎	◎					◎	○						◎				
n	◎	◎					◎						◎					
o				◎					◎			◎					◎	◎
p				○			○	○		◎				○				
q			○						◎			◎			◎			◎
r			○									◎			◎	○	◎	
◎数	4	4	0	1	0	0	4	0	3	2	1	4	4	4	5	1	4	3
○数	0	0	2	5	0	1	1	6	1	1	1	0	0	2	1	2	1	1

● 結果の分析・考察

７月のソシオメトリックテストの結果は、男子の場合、相互選択がなかったのがＲの１名のみ、全く選択がないという孤立した生徒はいなかった（図表13）。女子の場合、相互選択がなかったのがｃ・ｅ・ｆ・ｈの４名で、そのうちｅのみ選択すらされておらず孤立している（図表14）。また、比較的人気のあるのは、男子Ａ・Ｉ・Ｌ・Ｏ・Ｑの５名（図表13）と女子ｄ・ｈ・ｎ・ｏの４名（図表14）は、６名以上の生徒から選択されている。

４月に実施したソシオメトリックテストの結果（Ｐ.64図表２・３）に比べてみると、男子の場合、相互選択がなかったのは４名から１名に減った。また、誰からも選ばれなかった孤立した生徒も２名から０名に減少した。女子の場合は、相互選択がなかったのは、３名から４名に増えてはいるが、実質的にはその中の３名が調査当日欠席しており、データとしてカウントできない。しかし、誰からの選択もない孤立した女子生徒が１人いるので注意を要するところである。全体的には、男子の人間関係が改善されてきたことがわかる。

(2) スクールモラルテスト（SMT）の結果

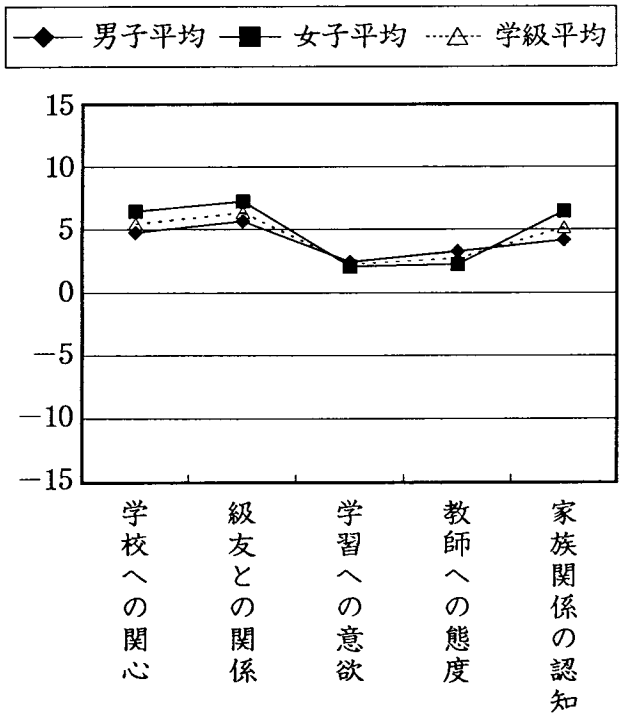
図表15　7月SMT学級集計表（男子）

	学校への関心	級友との関係	学習への意欲	教師への態度	家族関係の認知	総合平均
A	5	14	−3	11	11	7.6
B	3	8	9	7	5	6.4
C	−3	1	−4	−5	3	−1.6
D	6	9	6	5	8	6.8
E	9	2	11	0	−1	4.2
F	13	9	14	11	13	12
G	−5	2	−4	−2	8	−0.2
H	−1	2	2	−1	3	1
I	8	1	−3	5	2	2.6
J	4	5	−2	5	5	3.4
K	13	11	4	8	0	7.2
L	8	7	2	1	−4	2.8
M	−1	6	5	−4	1	1.4
N	10	9	10	8	13	10
O	10	7	−2	9	10	6.8
P	13	13	11	−3	1	7
Q	3	2	−3	2	−1	0.6
R	−9	−5	−8	2	−2	−4.4
男子平均	4.8	5.7	2.5	3.3	4.2	4.1

図表16　7月SMT学級集計表（女子）

	学校への関心	級友との関係	学習への意欲	教師への態度	家族関係の認知	総合平均
a	3	6	−8	−7	7	0.2
b	−2	6	7	3	5	3.8
c						
d	14	11	1	2	10	7.6
e	15	15	13	12	14	13.8
f						
g	−1	8	−4	2	8	2.6
h						
i	13	12	6	7	3	8.2
j	15	14	5	10	13	11.4
k	9	3	0	5	9	5.2
l	14	11	9	10	12	11.2
m	−4	1	−6	−10	10	−1.8
n	2	−1	1	−11	11	0.4
o	11	11	1	2	4	5.8
p	5	4	0	2	−1	2
q	13	12	7	12	4	4.6
r	−9	−4	−1	−4	−11	−5.8
女子平均	6.5	7.3	2.1	2.3	6.5	4.9

図表17　7月SMT学級プロフィール



● 結果の分析と考察

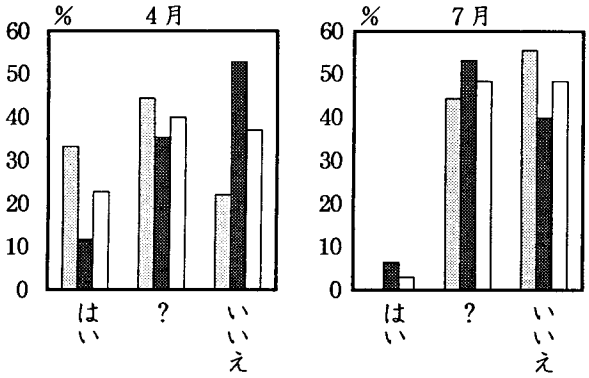
7月のスクールモラルテスト（SMT）学級集計表を見てみると、入学後3ヶ月たって学校生活にも慣れた生徒たちの学校モラルの状況が診断できる。4月のSMTの結果（p.65図表5.6.7.）と比べてみると、男子は2.3から4.1へ（図表15）、女子は4.6から4.9（図表16）へとそれぞれ学校モラルの数値は上昇している。特に、男子の伸びが顕著である。7月SMT学級プロフィールのグラフ（図表17）を見てみると、全体的には向上しているものの、4月で高い数値を示していた教師への態度が低くなっている。特に女子の変化が著しいのがわかる。対して、級友との関係や学習への意欲、家族関係の認知の比率が上昇した。

(3) 級友関係の変化（SMTより）

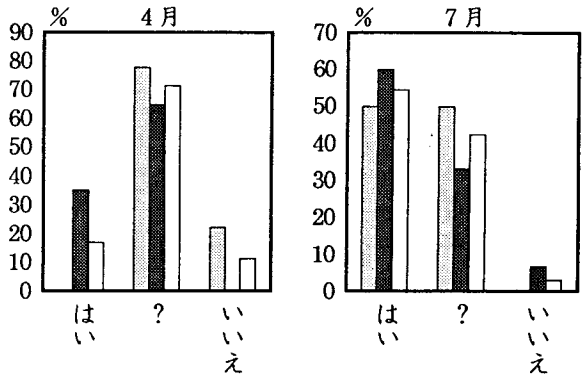
① 学級に関する項目（図表18）

□男子　■女子　□学級

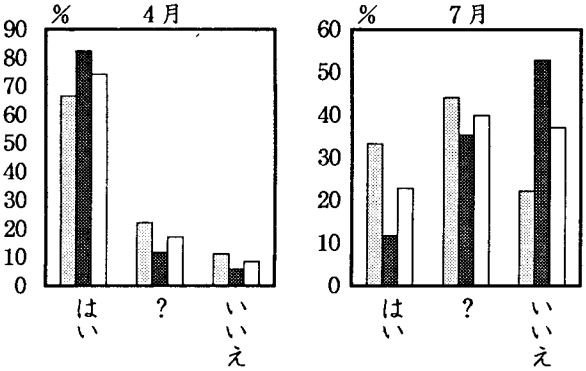
1.あなたの組は、まとまりがないと思いますか。



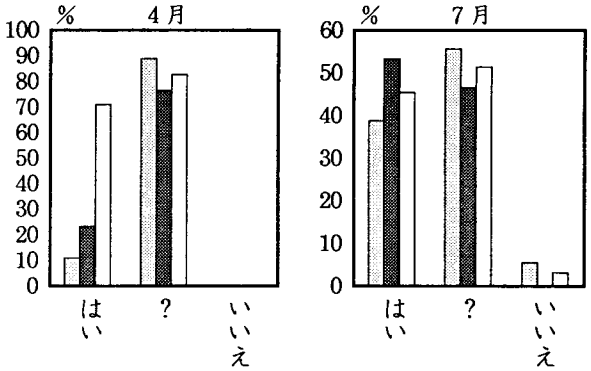
2.あなたの組では、友だちがこまっているときには、助け合いますか。



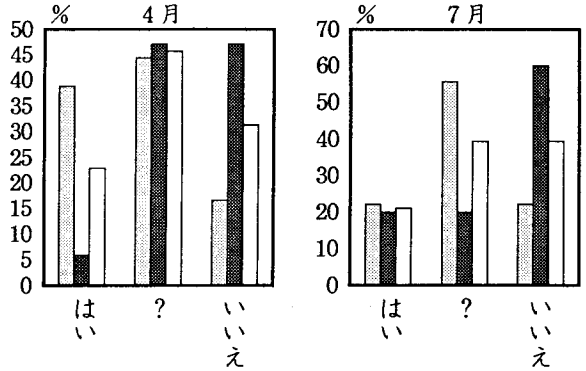
3.あなたの組は明るく楽しいですか。



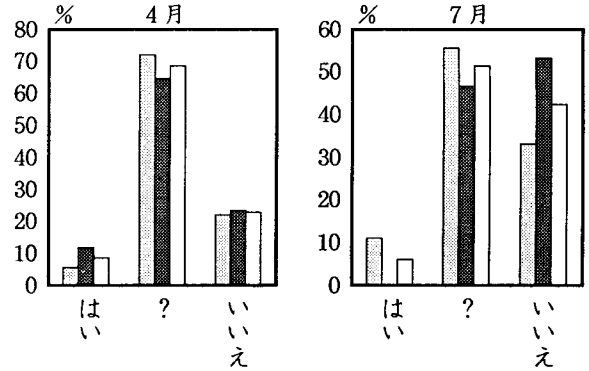
4.あなたの組では、みんなで助け合って勉強していますか。



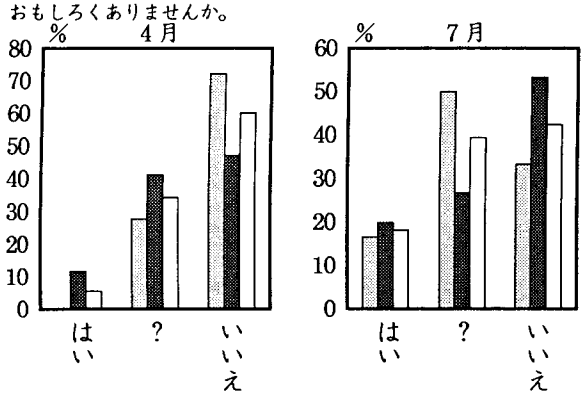
5.あなたの組には、いじわるする人がいますか。



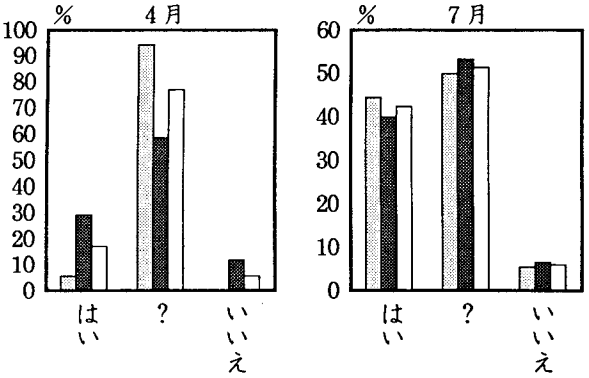
6.あなたの組には、あなたの失敗をよろこぶ人がいますか。



7.あなたの組には、先生のごきげんをとる人がいて、おもしろくありませんか。



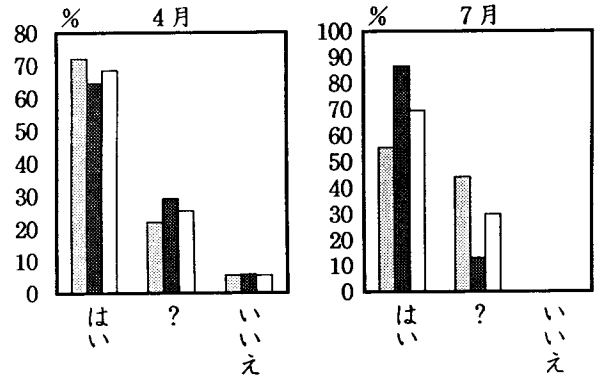
8.あなたの組はよくまとまっていて、よその組よりも良いと思いますか。



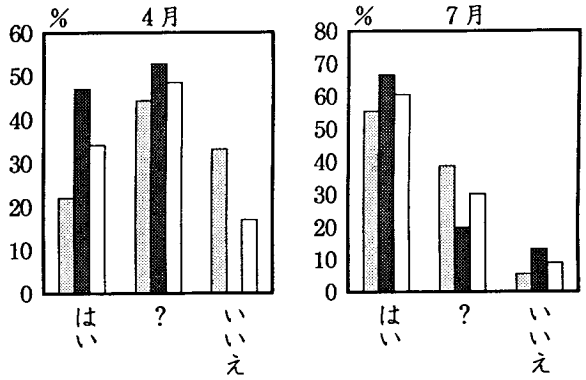
□男子 ■女子 □学級

② 友だちに関する項目（図表19）

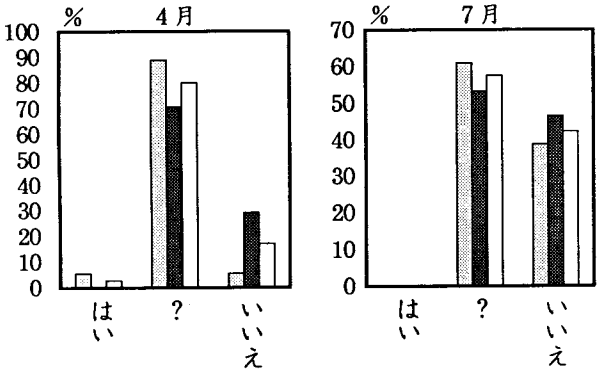
9.あなたの組には、心から親しくしている友だちがいますか。



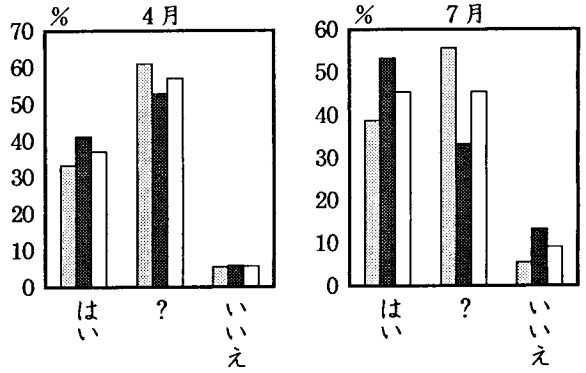
10.あなたの組には、尊敬する友だちがいますか。



11.あなたのグループは、みんなから悪くみられていると思いますか。

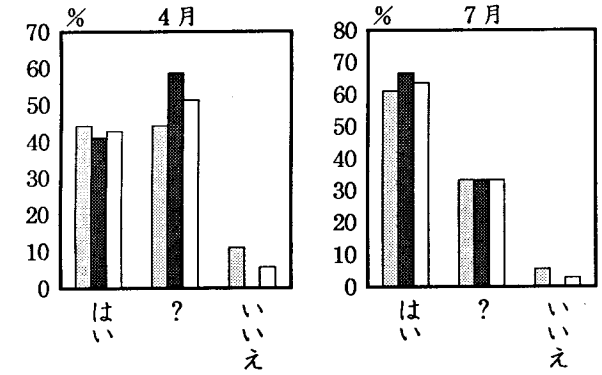


12.あなたの組には、あなたの気持ちをわかってくれる友だちがいますか。

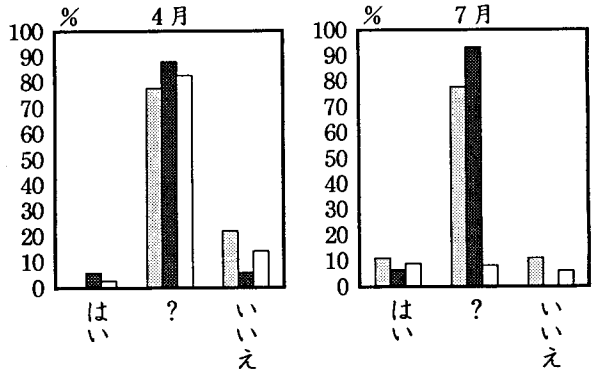


③ 自己に関する項目（図表20）

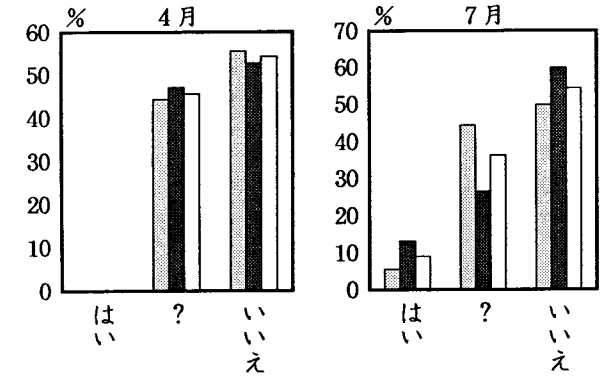
13.組の人たちは、みんな、あなたに親切にしてくれますか。



14.あなたは、この組の多くの友だちから好かれていると思いますか。



15.あなたは、この組で、のけものにされているような気がしますか。



級友関係の変化の分析と考察 (P.78.79の図表18.19.20参照)
望ましい変化としては、学級のまとまりがないとした男子生徒の比率が33%から0%へ、まとまりがあるとする比率が22%から56%へ、友達を助け合うが男子0%から50%、女子が35%から60%へ、助け合って勉強しているが17%から46%へ、いじわるする人がいるは男子39%から22%へ、よその組より良いが17%から42%へ、親しい友達がいる女子は65%から87%へ、尊敬する友達がいる男子は22%から56%、女子は47%から67%へ、グループが悪く見られていないが17%から42%へ、気持ちをわかってくれる友達がいるが37%から46%へ、親切にしてくれるが43%から64%へなどとなっている。一方、望ましくない変化としては、学級が明るく楽しいが74%から23%へ、いじわるする人がいるは女子が6%から20%へ、失敗を喜ぶ人がいるは23%から42%へ、ご機嫌取りがいて面白くないは6%から18%へ、親しい友達がいるは男子72%から56%へ、のけものにされているは0%から9%へなどがあげられる。

Ⅵ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

今回の研究を通して、生徒の実態調査からこの3ヶ月余りで生徒の人間関係に大きな変化があらわれているということがわかった。入学当初、女子に比べて男子の人間関係に多少の問題があったが、7月の調査結果からは男子の人間関係が改善されているのがわかる。また、グループ・エンカウンターの実践からは、級友の信頼関係を成長させ、自尊感情を高める上でとても効果的な手段であるということがわかった。具体的には、生徒の記入したふりかえり用紙から考察すると、「みんなのことがよくわかった」というような相互理解が深まり、「みんな仲良くなった」というリレーションも深まったと思う。また、「楽しかった」「またやりたい」という感想が多く、生徒たちのエクササイズにのぞむ表情からも多くの生徒たちがエンジョイしていたと思う。中には消極的な生徒もいたが、おおむね積極的に参加していた。以上の結果から教師と生徒の望ましい豊かな人間関係を育てるには及ばなかったが、『グループ・エンカウンターを導入することで、自己理解や他者理解につながるコミュニケーションが促され、生徒相互の望ましい豊かな人間関係を育てることができる』といえる。

2 今後の課題

グループ・エンカウンターは、道徳や特活の時間に行われる単独の効果を期待するというよりは、学校におけるすべての活動と関連づけながら、エンカウンターの考え方を学級経営の大きな柱として機能させていくことが重要である。その際、教師の基本的な生き方が学級の雰囲気に大きな影響を与えているといえる。また、学校生活において教師や友達との関係が安定することが何よりも大切で、その土台の上に教師や友達から認められることがなければ、生徒各自の自己実現につながらない。その点からすれば、SMT学級プロフィールの変化の結果からもわかるように、教師と生徒の人間関係についての変化は見逃してはならない。なぜ教師への態度を示す信頼の数値が低下したのか。その原因と対策を考えることが今後の大きな課題といえる。理想的な結果が出るには6回の授業実践ではまだまだ不十分である。今後は、グループ・エンカウンターのエクササイズの改良と工夫そして、年間指導計画の中にどう位置づけていくかを考えながら、継続的に実践していきたい。

〈引用・参考文献〉

(1) 國分康孝編 1992 「構成的グループ・エンカウンター」 誠信書房
(2) 國分康孝監修 1996 「エンカウンターで学級がかわる 中学校編」 図書文化
(3) 國分康孝監修 1997 「エンカウンターで学級がかわるPart2 中学校編」 図書文化
(4) 高橋史朗編 1997 「学級経営に活かす教育相談」 明治図書
(5) 松原達哉編「実践ハンドブックNo.2学校カウンセリングの考え方・進め方」 教育開発研究所
(6) 手塚郁恵・刀根良典共著 1988 「学級経営実践マニュアル」 小学館
(7) 田中 雄著 1995 「学級経営フレッシュアップ」 東洋館出版社